

新湊大橋、内川、恋人の聖地...

新湊舞台に 小説を執筆

射水市新湊地区を舞台にした小説の執筆に、同市片口、自営業笹木一彦さん(44)が取り組んでいる。新湊大橋や内川などをストーリーに盛り込み、陸上競技を辞めていた主人公が五輪出場を果たすまでの心の動きや葛藤をつづる。来年3月をめどに完成させる予定で、夢や希望を描き続ける大切さを若い世代に伝える。

小説は、笹木さんが「らす設定とした。

幻冬舎ルネッサンス 小説には新湊大橋を

(東京)を窓口にも費 背景に主人公が走る場

出版した「好きって言 面をはじめ、新湊漁港

葉が咲いた朝」の続編 で揚がるシロエビや、

に相当する。主人公は 「恋人の聖地」で知ら

五箇山の合掌造りに暮 れる海王丸パークなど

らしていたが、続編で 新湊地区の魅力が随所

は新湊地区に見られる に織り交ぜる。内川界

建物の角を斜めに切っ わいの関係者を実名で

た「角切りの家」に暮 登場させることも検討

射水・笹木さん「魅力伝えたい」

し、臨場感を高める。

「好きって言葉が咲いた朝」では、主人公が中学2年生のころ、転校してきた女生徒との交流を描き、井波彫刻のキーホルダーを贈ったり、恋の成就を球根を植えて占う「チュリップ伝説」などを盛り込んだ。種から球根を育て、開花するまでの苦労を引き合いに、陸上で結果が出ずに悩む主人公を励ますエピソードも添えた。

笹木さんは「自ら挑戦する大切さを伝え、周囲の人々の温かさが息づく富山の魅力も発信したい」と話した。



執筆を進める笹木さん

—射水市片口